

高次脳機能障害者支援 茨城県の取組み

茨城県立リハビリテーションセンター

支援コーディネーター

就労支援課

心理判定員

就労支援員

寺門正人

鶴岡祐子

茨城県の紹介



茨城県立リハビリテーションセンター



袋田の滝



竜神大吊り橋



借楽園



県庁 水戸市

笠間市



JAXA筑波宇宙センター



牛久大仏

人口:2,921,000人 (全国11位)
農業が盛ん (可住地面積 全国4位)
収穫量日本一: メロン、栗、れんこん など

高次脳機能障害者支援拠点

茨城県立リハビリテーションセンターの紹介

茨城県立リハビリテーションセンターの概要

障害者総合支援法に基づく、就労移行支援、自立訓練（機能訓練・生活訓練）の事業を行う多機能型の訓練施設です。

- 自立訓練（機能訓練） 定員 40名
- 自立訓練（生活訓練） 定員 10名
- 就労移行支援 定員 20名
- 施設入所支援（居住支援） 定員 70名

訓練内容

職能訓練

情報処理



陶芸



職業適応



自動車運転



機能訓練

理学療法



作業療法



言語療法



総合機能訓練



体育



調理



生活訓練

生活訓練



支援拠点としての業務内容

1. 相談支援

2. 人材育成(研修)

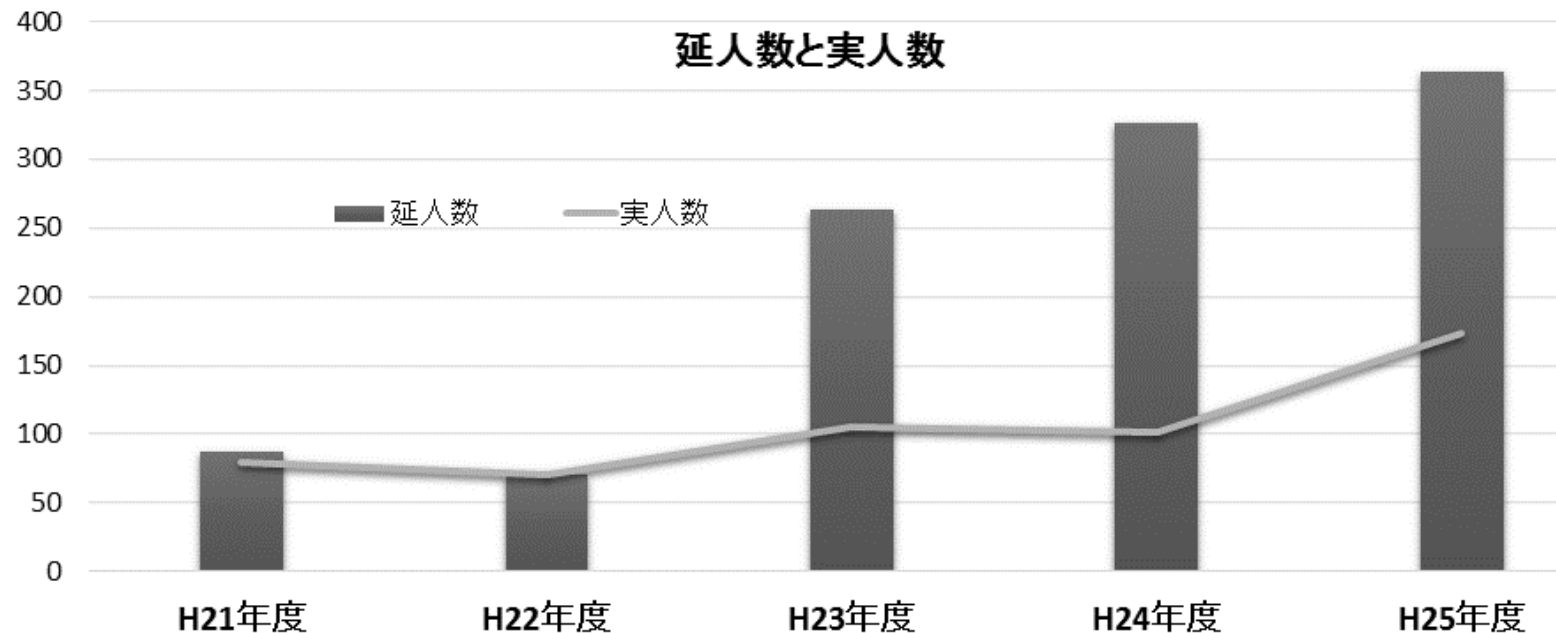
3. 啓発、啓蒙、情報発信

4. ネットワークの構築

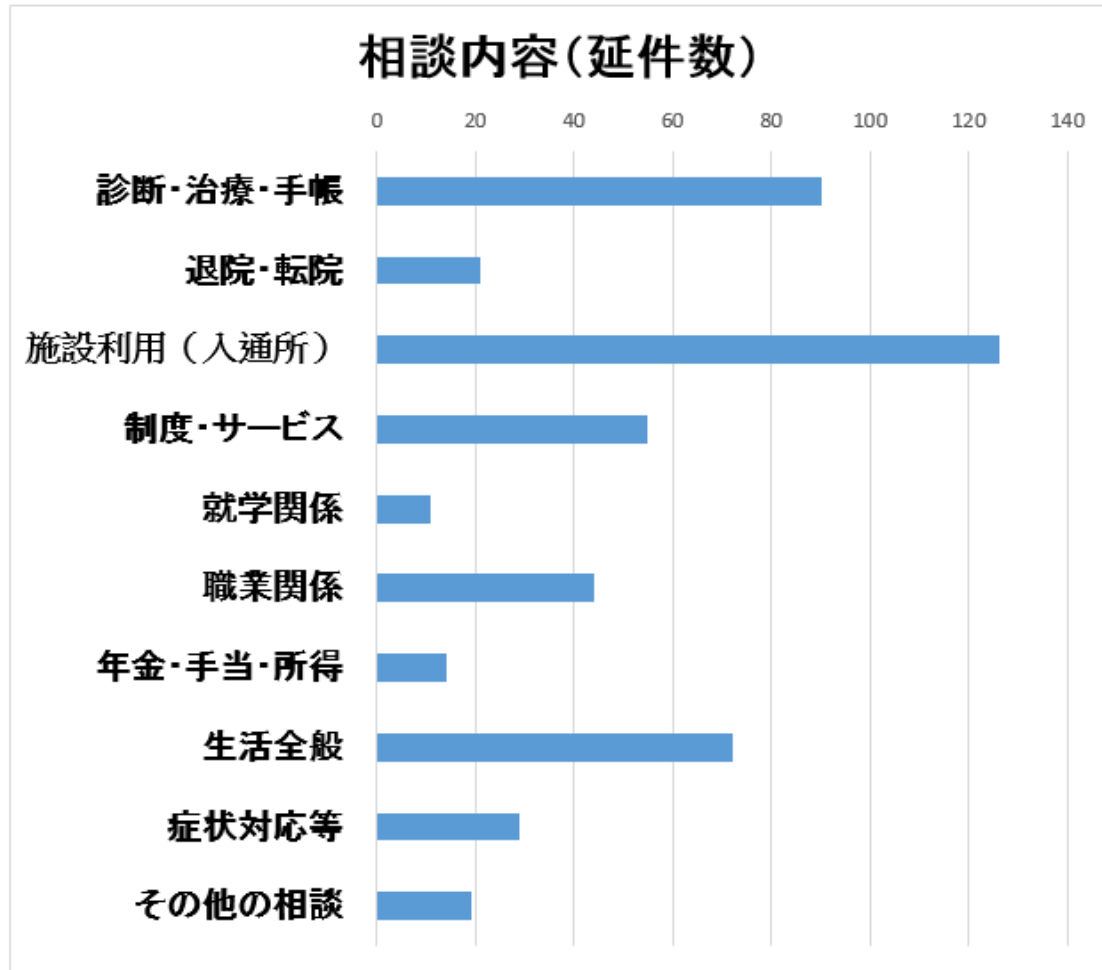
1. 相談支援

◆高次脳機能障害者の相談件数の推移(電話・来所・メール・訪問)

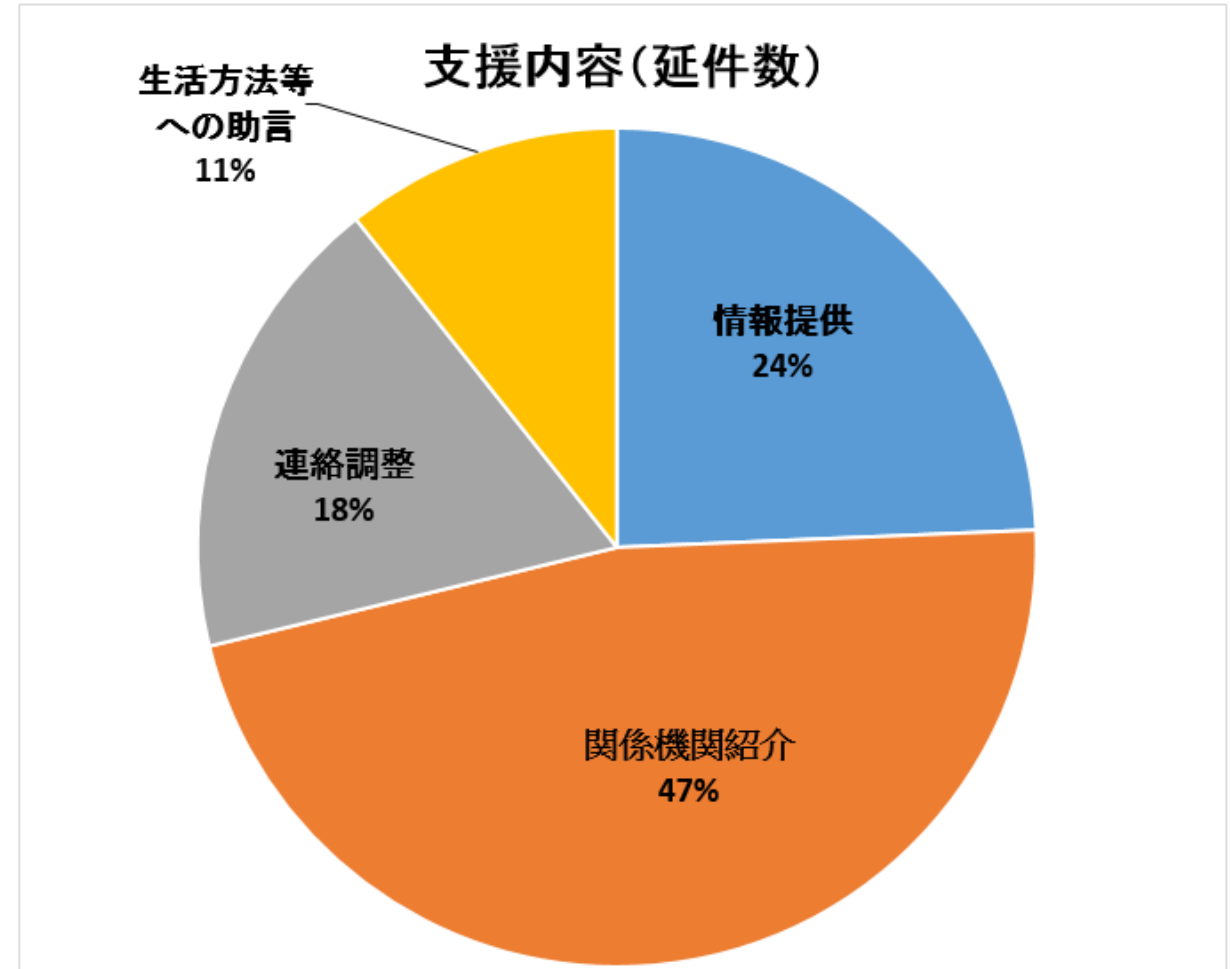
年度	延人数	実人数
平成21	87	80 (男65 女15)
平成22	70	70 (男38 女31 不明1)
平成23	264	105 (男76 女24 不明5)
平成24	327	101 (男85 女15 不明3)
平成25	364	173 (男122 女41 不明10)



◆相談内容及び支援内容(H25年度)



施設入所の相談が最も多い。
続いて診断・治療・手帳の順。



関係機関の紹介が47%を占める。
主に多いのは医療機関や福祉施設の紹介等。

2. 人材育成(研修)

◆高次脳機能障害者支援従事者研修実績(H23年度以降) ※H20年度より実施

	研 修 テ ー マ	講 師	対 象 者
H23年度	回復期後の高次脳機能障害	県立医療大学附属病院 医師	市町村職員・療法士・SW・施設職員
	知っておきたい障害年金	社会保険労務士	市町村職員・療法士・SW・施設職員
	高次脳機能障害の社会的行動障害	専修大学准教授	市町村職員・療法士・SW・施設職員
	①高次脳機能障害者の理解と支援について ②県立リハビリテーションセンターの役割について	県立医療大学 講師 県立リハビリテーションセンター 支援Co	社協
H24年度	失語の理解を失語のある人々との関わり方について	筑波大学准教授	市町村職員・療法士・SW・施設職員
	高次脳機能障害の理解と認知リハビリテーションについて	筑波大学講師	市町村職員・療法士・SW・施設職員
	高次脳機能障害者の理解と支援コーディネーターの役割について	県立リハビリテーションセンター 支援Co	市町村職員・施設で相談に関わる者
	成年後見制度の理解と活用	筑波大学講師	市町村職員・療法士・SW・施設職員
H25年度	高次脳機能障害者支援について	県立リハビリテーションセンター 支援Co	相談支援事業所・社協
	自賠責保険について	日本損保協会	市町村職員・社協職員・療法士
	高次脳機能障害者支援と県立リハビリテーションセンターの役割	県立リハビリテーションセンター 支援Co	市町村職員・相談支援事業所職員
	WAIS-Ⅲについて	筑波大学講師	心理士・言語聴覚士・作業療法士

◆他機関主催研修会への講師派遣実績

• 平成23年度 8件

社会福祉協議会 3件

介護保険事業所 3件

支援者・当事者家族 2件

• 平成24年度 4件

行政関係 1件

社会福祉協議会 1件

病院関係 1件

支援者・当事者家族 1件

• 平成25年度 10件

病院関係 4件

行政関係 2件

社会福祉協議会 2件

その他 2件(特別支援学校、心身協)

3. 啓発、啓蒙、情報発信

◆ホームページの作成

- ・研修会情報の掲載
- ・社会資源調査結果の掲載(医療・福祉)
- ・社会福祉協議会アンケート調査結果の掲載・・・など

◆マニュアル、チラシ等作成・配布(HPにも掲載)

- ・高次脳機能障害者支援マニュアル
- ・高次脳機能障害者支援小冊子
- ・高次脳機能障害専用相談チラシ

◆その他

- ・茨城放送、茨城新聞、県広報誌による支援拠点の案内
- ・市町村広報誌への掲載依頼

4. ネットワークの構築

- ◆ 関係機関への連携依頼訪問
- ◆ アンケート調査等による地元資源及び現状把握
- ◆ 事例検討会への参加及び開催支援
- ◆ 高次脳機能障害者訓練施設連絡会の実施

◆ 関係機関連携依頼訪問

- 平成23年度 114ヶ所

 - ★行政・社会福祉協議会 86ヶ所

 - 医療機関 13ヶ所

 - 相談支援事業所 15ヶ所

- 平成24年度 112ヶ所

 - 行政・社会福祉協議会 25ヶ所

 - ★医療機関 62ヶ所

 - 相談支援事業所 25ヶ所

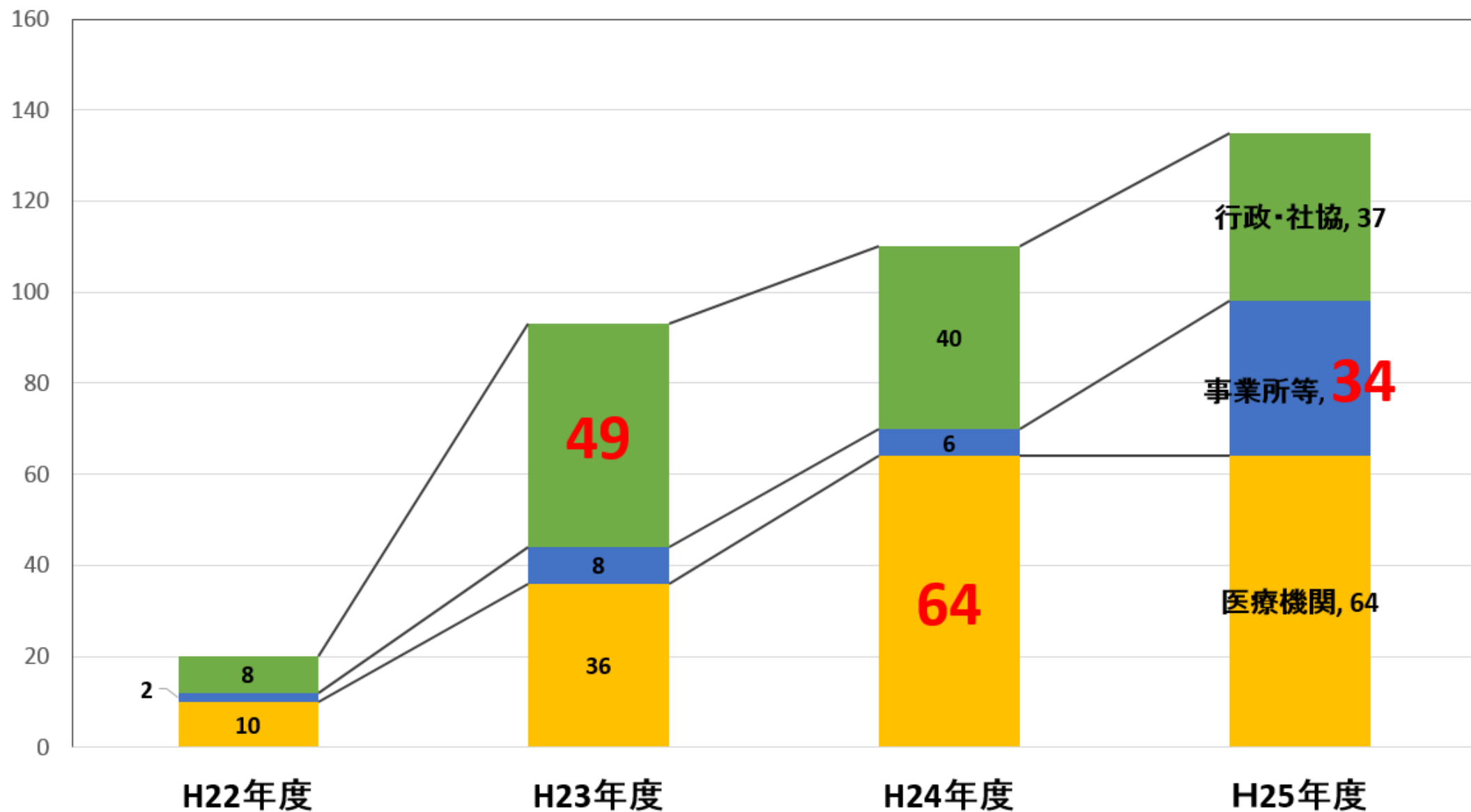
- 平成25年度 94ヶ所

 - 行政・社会福祉協議会 6ヶ所

 - 医療機関 14ヶ所

 - ★相談支援事業所 74ヶ所

◆連携依頼訪問による相談件数の推移



特定相談支援事業所調査報告

- 特定相談支援事業所110か所に調査票を送付（メール，郵送，FAX）
- 調査期間（H25.12.18～H26.1.24）
- 回収率（44/110=40%）

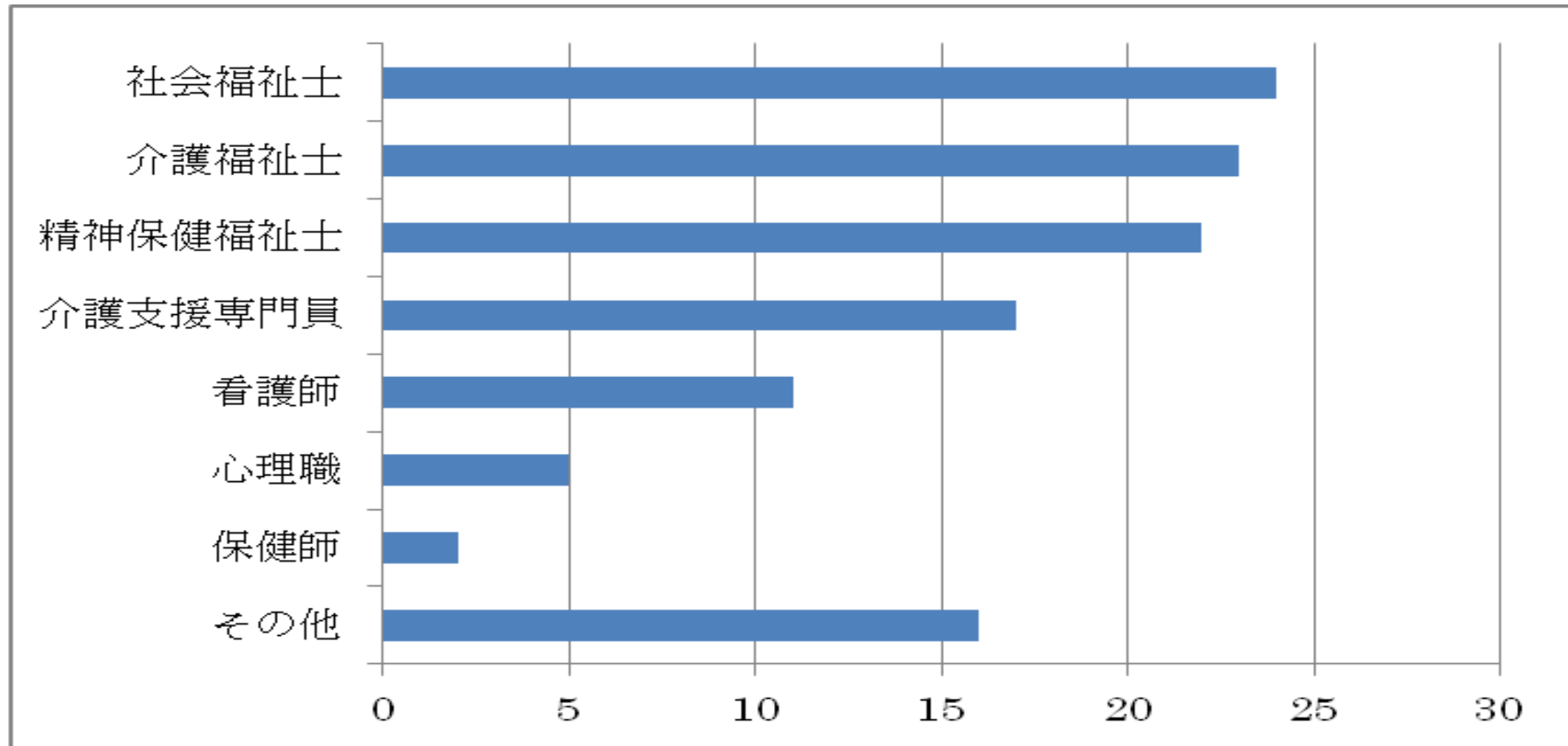
◆相談支援に関わる職員

・ 相談支援専門員 84人 (平均 1.9人 最大 4人)

・ 上記以外で相談に関わる職員 43人 (最大 5人)

合計 127人 (平均 2.9人)

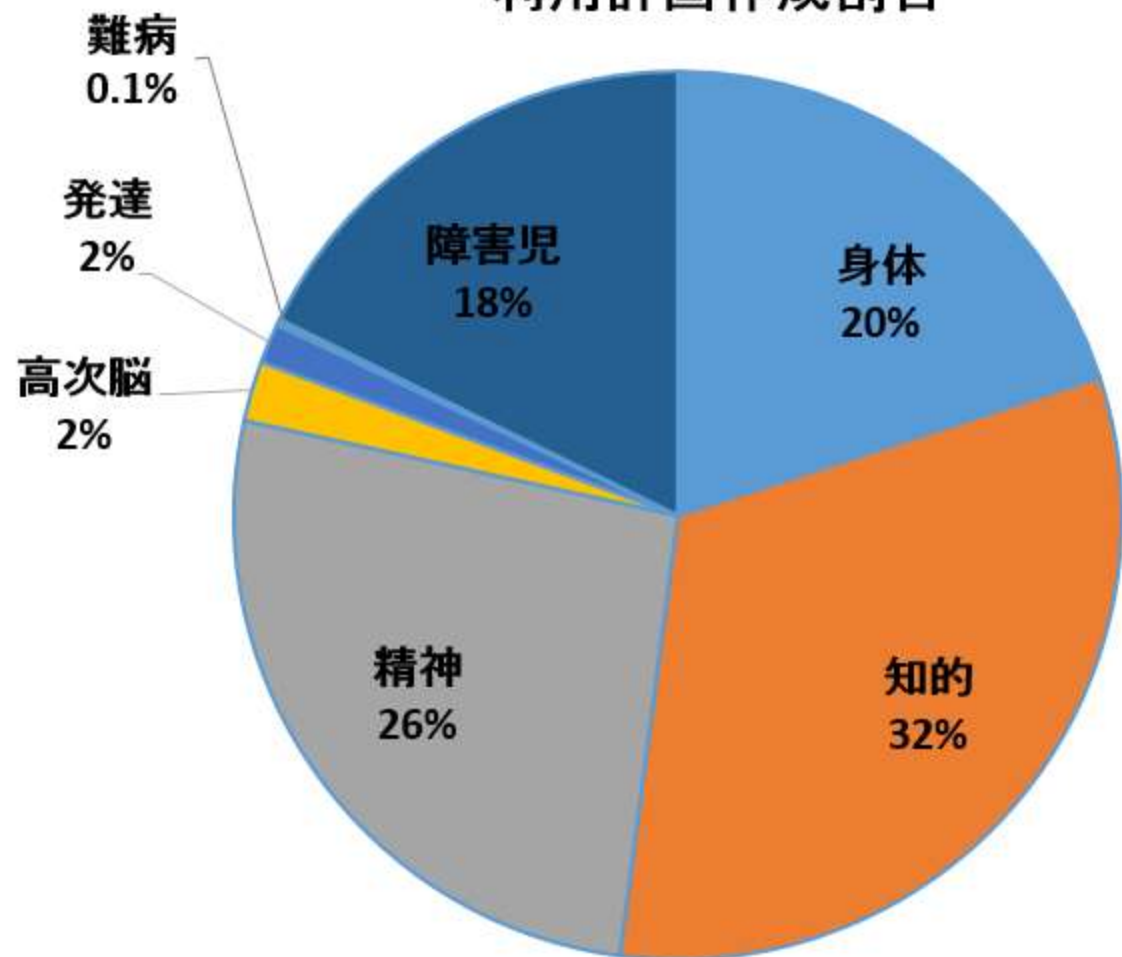
◆職員保有資格(相談支援に関わる職員)



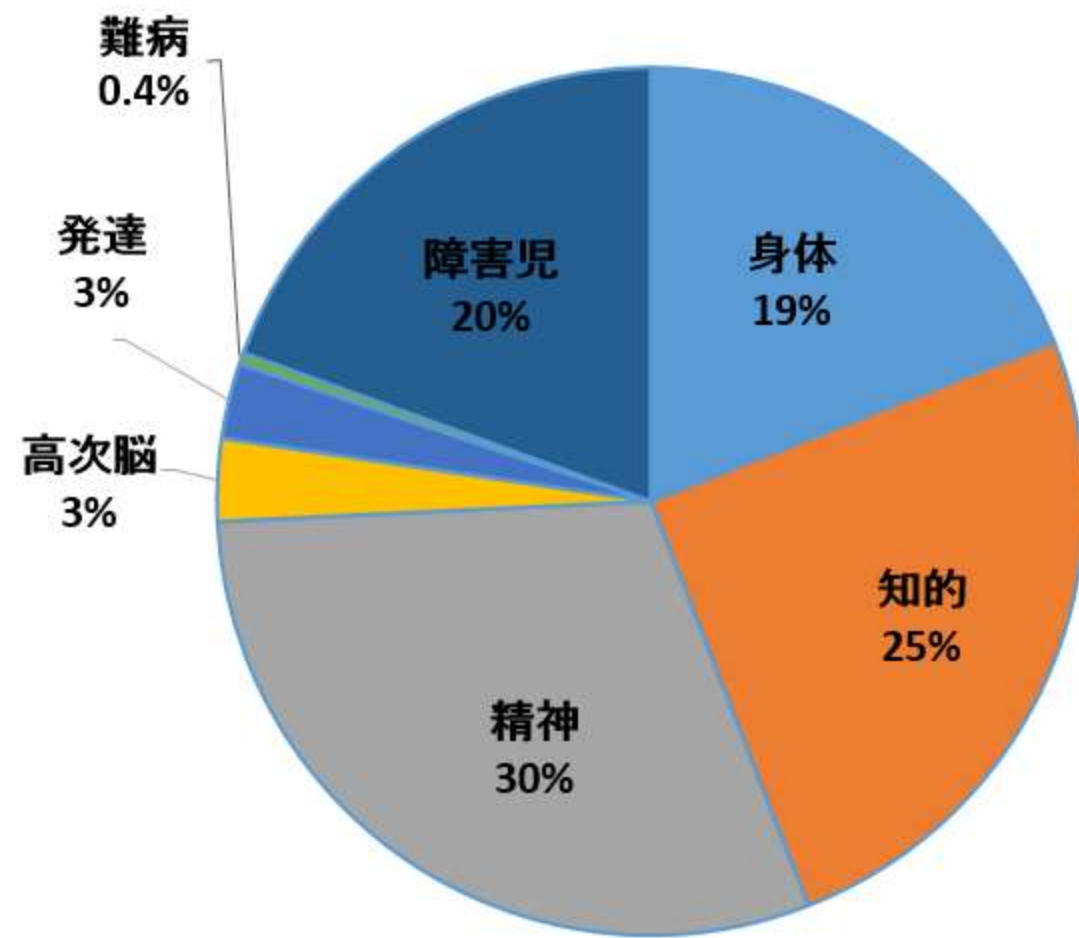
※その他(ホームヘルパー, 保育士, 社会福祉主事, 児童指導員など)

◆サービス等利用計画作成(H25.4~H25.12)

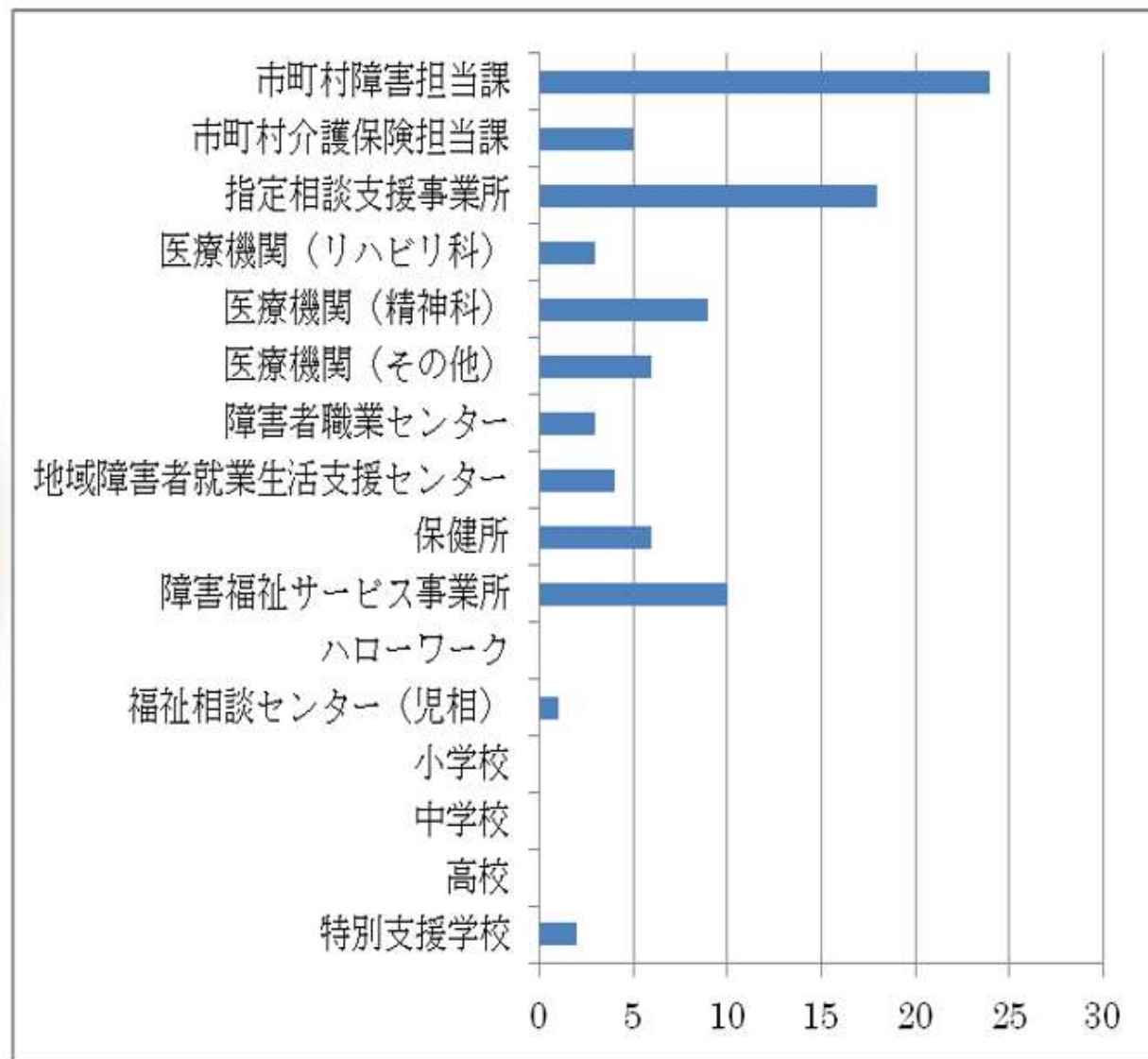
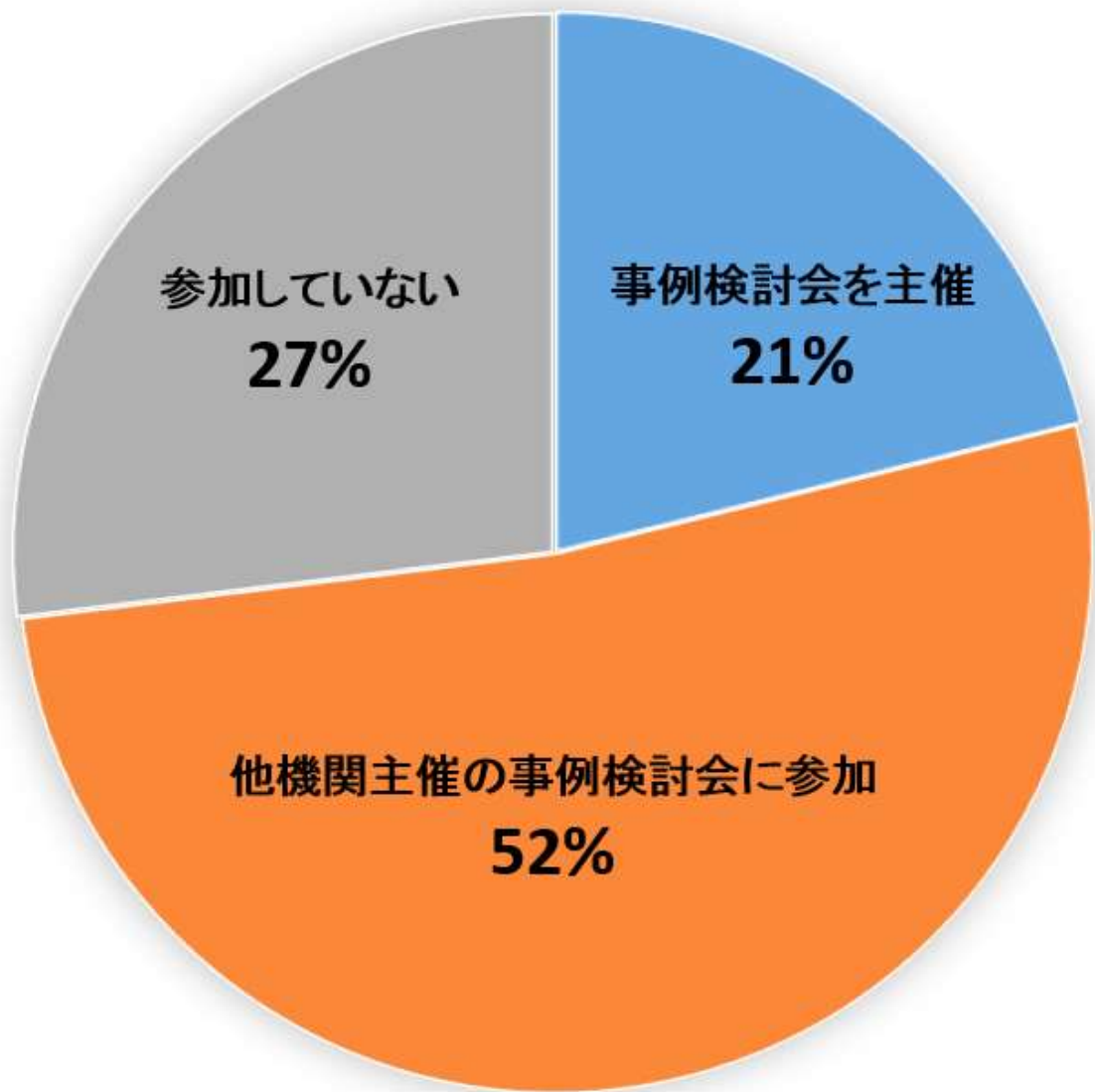
利用計画作成割合



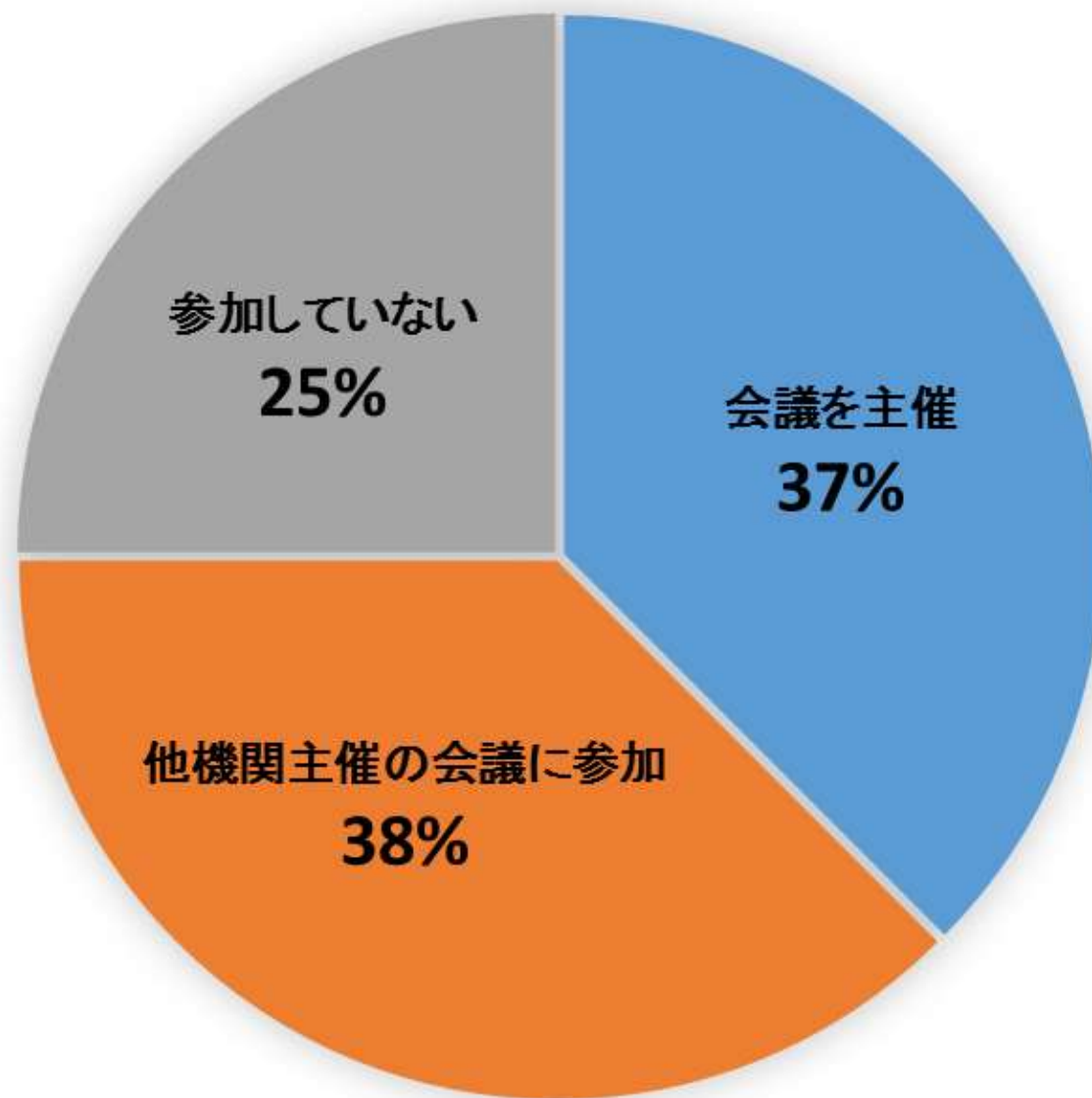
モニタリング割合



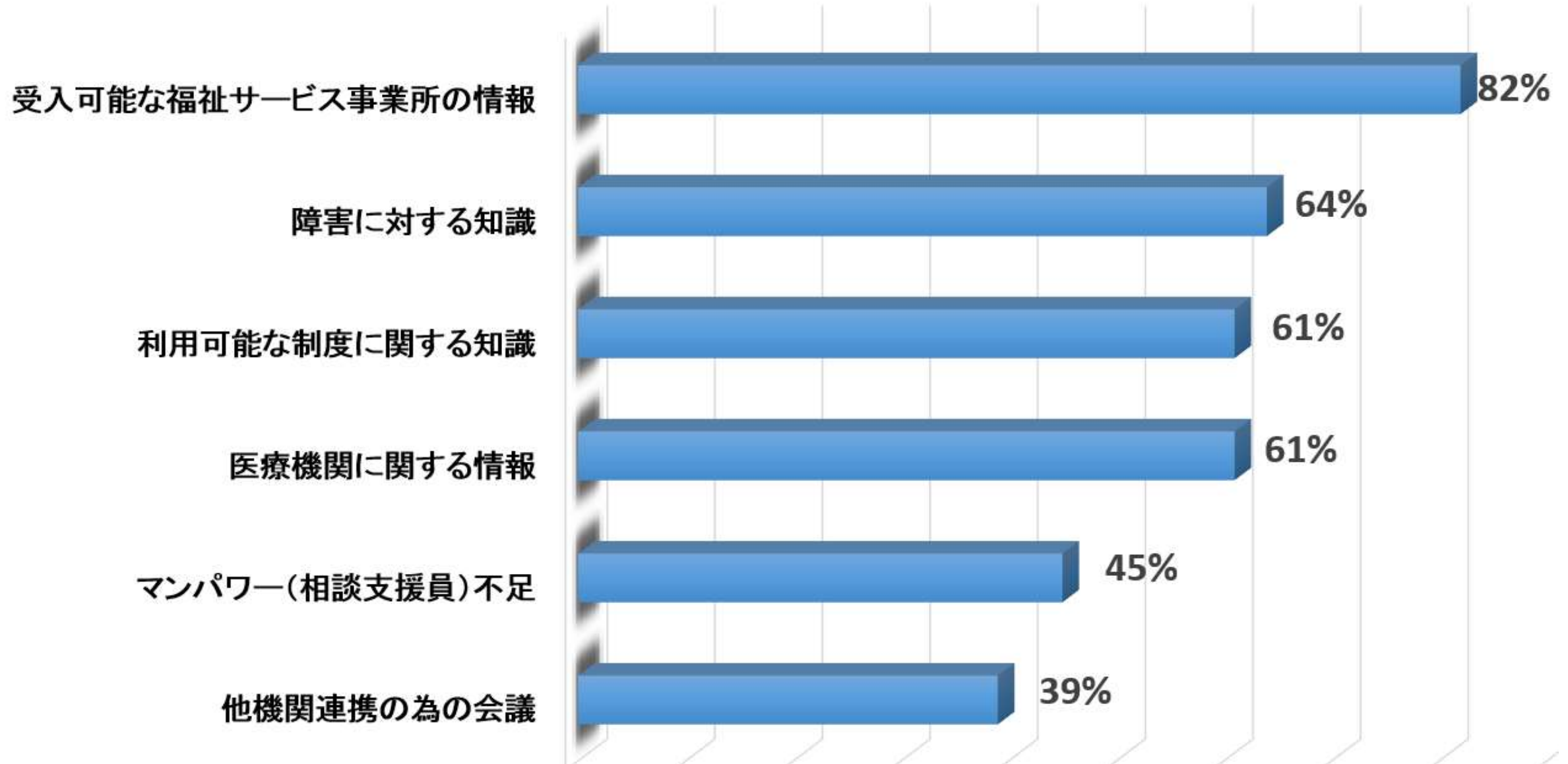
◆事例検討会の開催・参加



◆地域内の関係機関連携を対象とした会議・連絡会



◆不足と感じている事



相談支援事業所調査から見えてきた課題

- 受入れ可能な福祉サービス事業所の情報が不足
- 高次脳機能障害に関する知識及び制度の理解
- 医療機関に関する情報が不足

今後の方向性

- 相談支援事業所の相談員を対象とした研修
社会福祉士会主催の現任者研修に参画し、研修を実施
(H27年度予定)
- ホームページの社会資源情報を更新
関係機関に再度調査を実施し最新の情報を発信

事例紹介

職場復帰を目指した方への
支援の取り組み

事例紹介

- A氏: 40代 男性: 精神保健福祉手帳 2級
- 診断名 高次脳機能障害
(注意力低下・処理速度低下)
頭部外傷後遺症, うつ状態
- 家族構成 妻・子供4人との暮らし
- 職業 研究職
- 労働災害であり, 休職期間の定めは無い

発症から入所までの経過

平成X年4月バイク運転中(通勤途中)に自動車と衝突,救急搬送。頭部外傷(びまん性軸索損傷),外傷性くも膜下出血,多発骨折の診断を受ける。3回の転院後,X+1年1月退院し自宅で生活しながら外来リハを利用。3月から職場復帰をするが4月に入り休職。5月にはうつ状態が悪化,専門医の治療を受ける。病院でのデイケア利用は月2回。

* 8月から生活訓練・施設入所支援で利用開始。利用目的:生活リズムの確立,体力の向上,自発性・活動性の向上。早期の職場復帰。

訓練の内容

- 情報処理訓練(パソコン)
- 職業適応訓練(プリント課題・簡易軽作業)
- 陶芸(茶碗やマグカップ等の制作)
- 自動車再訓練(座学講習4H・構内6H・路上6H)
- 体育訓練(6分走・水泳訓練など)
- 総合訓練(集団での各種体操など)
- 作業療法(グループワークでの調理・木工)
- 園芸(野菜作りなど)・美術(塗り絵・写生画)
- 心理(週1回の心理面接)

訓練の評価

- ・情報処理訓練：機能操作に問題なし
- ・職業適応訓練：集中力・正確性あり・**ネガティブ発言**
- ・陶芸：手先が器用・自分の考えを制作に活かせる
- ・自動車再訓練：**精神状態の影響を考え同乗者付き運転で**
- ・体育訓練：走れないアピール→自主的に走れる
- ・総合訓練：体力向上するも**心理的な状態により影響有り**
- ・作業療法：他利用者への配慮を率先して行える
- ・園芸：積極的な取り組み・**体力面で若干の心配あり**
- ・美術：特徴を捉えて描写できるが**苦手意識が強い**
- ・心理：出来ないところばかり注目→前向き発言が増える

当初の懸念材料と改善点及び課題

- ・自信がなく不安→「出来ない・ダメだ」発言が軽減
- ・自発性・意欲低下→競争心が出てきた
- ・疲れ易く体力がない→改善あるが心理的な状態により影響する
- ・処理速度の低下→改善あるが標準より隔たりあり
- ・思考の柔軟性低下→時間の配分が出来ない
- ・そううつ症状→服薬にて様子観察中
- ・身だしなみ無精→場に応じた身だしなみが可能に

復職までの経過

- ・平成X+1年9月：職場上司との面談
- ・12月：職場上司・妻を交えた面談
- ・X+2年2月：職場訪問時に主治医の診断書の提出依頼あり
- ・3月：主治医・職場上司・本人と妻・リハ職員との話し合い
- ・5月：産業医との面談結果において、試し出勤を行いたい連絡がある。産業医との面談はこれまでに7回実施

・7月：職場訪問し、試し出勤に向けた日程調整と関係職員にレクチュアを実施

1週目・2週目 出勤3日(月・火・水) 午前中

3週目 出勤4日(月・火・水・木) 午前中

4週目 出勤5日(月～金) 午前中

5週目・6週目 出勤5日(月～金) 15:00まで

7週目・8週目 出勤5日(月～金) 17:00まで

* 高次脳機能障害者支援ネットワーク会議で報告

- 8月：試し出勤状況確認のため職場訪問を実施
- 8月下旬：産業医との面談
 - * 職場復帰が可能との回答・主治医の診断書を作成し提出することになる

- 9月：当センターを退所し,翌日から職場復帰
- ◎ジョブコーチ支援については事業所と本人の希望により使用せず

家族への支援

- 子供達との距離感を埋めること
(子供との会話・一緒に遊ぶ時間をつくる)
- 家庭での役割を少しずつ増やす
(妻が働くことになり,本人の家事の役割を増やす)
- 外泊中の欠薬についての注意
(薬の重要性と与える影響について説明)
- 困った時の相談場所
(障害者就業・生活支援センターへの登録)
(家族会交流室への参加)

まとめ

- ◎センターの各訓練担当者が協働,多職種で連携することにより幅広く評価でき,課題に対応してきたことが徐々に良い結果につながった。
- ◎事業所・家族・職員→頻回な電話・メール・面談を通して信頼関係の構築が出来た。
- ◎事業所への的確な情報提供と綿密な試し出勤による業務評価が出来た。
- ◎主治医からの医学的な詳しい障害状況の説明があり,事業所も再認識出来た。

◎一度復職に失敗していることもあり,もう失敗は許されない。皆が慎重で手堅く協力的である。

◎高次脳機能障害者支援ネットワークによる支援と連携が充実していた。

復職後の状況

- ・業務の実施状況：元の研究職（補助的業務）に復帰出来ている。
データベースの入力・資料の取りまとめ・子供向け出版本の編集補助業務に就いている。
- * 本人評価：自信は無いが頑張ってみる。
- * 職場評価：前向きに作業に取り組んでいる。
本人の専門知識が活かされ、書くことや話すことは際立っている。
- * 妻の評価：落ち着いた生活が出来ている。
家庭の中でも自分で出来ることは進んで行うことが出来ていて助かっている。

ご清聴ありがとうございました



茨城県ご当地キャラクター ハッスル黄門